

令和7年度 那須塩原市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 会議要旨

開催日時 令和8年2月5日（木） 13時55分から15時12分まで

開催場所 那須塩原市図書館みるる 1階サクシード・ツグナラホール

出席委員 7名

欠席委員 3名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市 企画部企画政策課 4名

産業観光部農務畜産課 1名

1 開 会

2 あいさつ（企画部長）

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少問題への対策や数値目標の進捗状況の確認を行う。本日は、地方創生関係交付金の検証も含め、若者の地方離れや外国人対策など、各分野の専門的な視点から幅広い意見をいただき、今後の施策に反映していきたい。

3 会長及び副会長の選出

- 会 長 宇都宮共和大学教授 陣内 雄次氏
- 副会長 那須塩原市商工会 人見 和夫氏

4 議事

- (1) 第2次総合戦略の進捗状況について【資料2-1、2-2、2-3】
- (2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業について【資料3】
- (3) 新しい地方経済・生活環境創生交付金事業について【資料4】(1)
- (4) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金【資料5】

（次ページへ続く）

《委員からの主な意見》

・第2次総合戦略の進捗状況について

- 若年人口の社会減が続く中、定住人口の維持だけでなく、「二地域居住」や「関係人口」を戦略にどう位置づけていくか検討が必要である。

・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業について

- KPIの数字報告だけでなく、経営的な視点を持った説明が必要である。
- 道の駅のオリジナル商品はオープン特需後の定着が難しいため、今後の方向性を見据えた継続的な商品開発が必要である。
- 高値で仕入れた生乳の活用については、生産者のこだわりを付加価値として打ち出し、酪農家の所得や生産意欲の向上につなげてほしい。
- 地元の高校生が道の駅での商品開発や販売に関われる仕組みを作ることで、将来地元に戻ってくる意識づけ（先行体験）になるのではないか。

・新しい地方経済・生活環境創生交付金事業について

- 地元企業への高卒等の新卒採用が厳しいため、学校と企業の採用担当者との連携をより深める取組が必要である。
- 高卒の就職者は親の助言に従う傾向があるため、市として適切なアドバイスや地元企業を知るイベント等を行うことで地元就職を促進してほしい。
- 本市は交通アクセスも良くテレワークの最適地である。多様な働き方の普及だけでなく、サテライトオフィスの誘致や新庁舎への併設など、働く場所の整備も検討すべきである。

5 その他

- 西那須野地区等の人口増の要因は、交通利便性の良さや分譲地の増加によるものである。
- 塩原地区の人口は年間100人を超えるペースで減少しており、深刻な状況である。

6 閉 会（15時12分）